平成29年度第4回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！
ほっとミーティング

テーマ　ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

1　開催日時　平成２９年（２０１７年）８月２３日（水）

午後７時から午後９時まで

2　開催場所　土屋公民館　１階　集会室

3　参 加 者　４人　傍聴者　１７人

ほっとミーティングの様子

４　市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日は大変暑い中ではありますが、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。また、日頃、皆さんには地域の福祉や子育て等の分野で尽力いただいており、重ねて御礼を申し上げます。

ほっとミーティングは、地域の皆さんのお話を伺い、御意見や御提案を市政に反映することを目的とし、取り組んでいます。平成２３年、市長に就任した一期目は東日本大震災が発生した直後だったこともあり、安心安全をテーマとした対話集会を行いました。翌年は、それぞれの地区の魅力を活かすような意見を伺うため、まちづくりをテーマとして実施しました。

平成２７年、二期目以降は、今後目指すまちづくりの計画として策定した「ひらつかＮｅｘＴ」を基にした対話集会を実施しています。

御存じのとおり、全国規模で少子高齢化が進み、人口が減少しています。本市も例外ではなく、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市では、平成２２年１１月の２６万８６３人をピークに人口が減っている状況です。国からは、自治体が存続するため、それぞれの地域で抱えている課題を踏まえ、将来を見据えた戦略をたてるように、との指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかＮｅｘＴ」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えていますので、よろしくお願いします。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思います。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆さんにお伝えさせていただきます。本日はよろしくお願いします。

5　主なミーティングの内容

①子育てについて

【参加者】

私は吉沢地区で学童保育の指導員をしています。日頃、子どもたちに接し、また、保護者とのやり取りの中で気になる点をお話します。

平塚市学童保育連絡協議会や平塚市学童保育指導委員会を通じて、要望内容を出させていただき、平塚市独自の政策を進めていることに感謝します。

ただ、学童保育に対する社会的な認知度が低いと感じています。子育ては、乳児期や幼児期も大切ですが、心身共に成長著しい学童期についても同様に重要です。学童期を支える学童保育について、施設や職員の充実がまだまだ図られていません。子育てをするなら平塚市、という意識を広げるためにも、学童保育の充実に尽力いただきたいと考えます。

また、平塚市では、学童保育の運営形態が様々であるため、これを原因とする懸念があります。学童保育の基本的役割は、親御さんに対しては、働きながらの子育てを支援すること。子どもたちに対しては、遊びを中心とした生活の場を作ることが挙げられます。しかし、運営主体によっては、そうした基本的役割を認識していない運営が見受けられます。私たちの学童保育は、保護者会が運営していますが、保護者との連携、地域との連携、そういった関係性があってこそ、質の良い保育ができると考えます。

【参加者】

私は旭地区の学童保育の指導員をしています。運営としては保護者会が担っています。施設は学校の近くにある専用の施設なので、環境としては安心ですが、すべての施設がそうではなく、老朽化している施設もあり問題です。

私の住んでいる土屋地区では、学童保育を利用する際、吉沢地区まで行く必要があります。子どもたちの人数が少ないとはいえ、潜在的なニーズはあると思うので、各地域に施設が整備できればと考えています。ただ、利用人数が少なければ施設の運営が難しいので、検討する必要はあると思います。

【参加者】

吉沢地区の学童保育の建物は、市内めぐみが丘にある２階建ての一戸建てです。防犯や防災の面では、多少の不安があります。

【市　長】

子育て支援については、重点課題として捉えており、子育て世代の方々から選ばれるまちになるため、政策を進めているところです。昨年から「子ども・子育て推進会議」を立ち上げ、庁内横断的な子育て支援策を講じています。子

の貧困に関する問題や障害のある子への支援なども検討しています。今年からは、子育て世代包括支援センターを整備し、保健師や助産師からの相談体制を充実させ、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援が可能になりました。

学童期のお子さんを支える学童保育については、乳幼児期のお子さんと同様に重要な時期になります。支援という部分で、なかなか目に見えた成果が出ていない部分もあるかと思います。お子さんが小学校に進学すると、今までのような支援が少なくなるため、そうした課題に、どう対応ができるかどうか、学童保育を所管している青少年課が、学校施設を管理している教育委員会とも話をしているところです。今回、意見を伺い、より寄り添える体制作りが急務だと感じました。

学校施設への移設については、青少年課や教育委員会とも考えていきます。現在、小学校余裕教室の使用は、３８か所のうち、７か所ほどになります。今後も、学校などで使える教室があれば、学童保育の場所として整備したいと思います。そうすることで、お子さんの安心安全にも寄与できます。具体的には、今年から神田小学校と岡崎小学校での取り組みを予定しています。多くの施設では、老朽化した借家を使っていることは承知していますので、改善に向けて考えていかなければなりません。

運営については、今まで、専用施設は指定管理で行っていたものを、委託に変えてきている経過があります。運営形態については、保護者会が多く、３８か所のうち、１７か所くらいになるのではないでしょうか。親御さんに負担がかからないような運営が理想だと思うのですが、なかなか難しいところです。

【参加者】

運営という部分も大変ですが、お子さんの生活の場、育つ場の環境づくりも大変であると感じます。学童保育の基本である育成支援はぶれないようにしないといけません。また、学童保育が学校内の教室にあると、地域との接点が無くなってしまうのではという不安もあります。ただ、子どもたちの安心安全を考えると、メリットはあると思います。

【市　長】

以前は、学校が地域に対して、開かれていなかった部分もあったかもしれませんが、今はそうした時代ではありません。公的な建物においても、いかにして、地域の方々が学童保育の運営に関わっていけるかということを、所管課である青少年課、教育委員会とも話をしたいと思います。

【参加者】

びわ青少年の家は、だいぶ老朽化しています。こどもたちが楽しみにしている一部のアスレチックが使えないままになっています。市内において、自然の中で遊べる場所は限られているので、こうした施設について、もう少し整備さ

れるといいと思います。一般家庭の方も利用できれば、利用者が増えるのではないでしょうか。

湘南平も、テレビ塔と展望台がきれいになって、レストランもできました。鮮やかなイラストも描かれ、明るくなったし、利用者も多くなったのではないかと感じます。先日、学童保育の関係者で名古屋にお住いの方が、平塚市を観光したいと言われたときに、まっさきに希望されたのが、湘南平でした。見てもらったときに、眺望の良さに感動していました。湘南平は、以前にアスレチックがありましたが、今はありません。景色だけでなく、遊ぶことができる場所を整備したほうが、子どもたちが喜ぶと思います。

【市　長】

びわ青少年の家は、長い歴史があります。建設した当時、私は青少年課に在籍しており、愛着のある施設です。青少年の健全育成のために建てられた施設であり、利用者の条件が定められているのですが、家族で利用したいという要望もあることは承知していますので、改めて担当部署に伝えます。ただ、利用者の条件変更については、条例改正の必要性もあり、慎重に検討していきたいと思います。アスレチックの修理や新設については、予算の確保も必要であるため、すぐに進められるかどうかは約束できませんが、担当部署に伝えます。

湘南平については、数年前までは木が生い茂っており、眺望もほとんど無かったような場所でしたが、本市の管理部門の職員が伐採を進め、きれいな展望空間となりました。展望台の中には、新しい食堂があり、地場産の食材を使ったメニューを提供し、好評を得ています。

圏央道が開通してから、北関東エリアから湘南エリアへの車が増えており、湘南平の魅力をどう活かしていくかを、シティプロモーションとして考えているところです。

湘南平では、恋人同士で鉄塔に鍵をかけていたこともあり、それを逆手にとって、鍵をかけるモニュメントを作り、もう一度魅力化を図ろうと具体的に進めています。事前キャンプの協定を結んだリトアニアの方々をお連れした際には、海まで望める眺めの良さに感動されていました。

魅力化については、湘南平とともに海岸エリアも含めて進めていますので、期待いただきたいと思います。

【参加者】

子どもたちが思い切り遊ぶ場所が無いという現状があります。公園があっても、隣家があるので遠慮しなければなりませんし、規制も厳しくなっているように感じます。学校の勉強だけでなく、遊びの中から、社会経験を学ぶことができるので、そうした場があるとよいのではないでしょうか。また、保護者同士が気軽に情報交換できるような場所も多くあると良いと思います。

②高齢福祉について

【参加者】

私は特別養護老人ホームに勤めており、高齢福祉の問題について話をします。土屋地区と吉沢地区は、人口密度が低く、交通の便が悪いというのが課題です。高齢者と話をする中で、やはり、交通の便についての相談が多いです。

通院や買い物の介助等の要望が多いのですが、介護保険でのサービスの対象外となってしまうので、対応できない部分があります。高齢者の外出の機会を増やすことができれば、介護予防につながりますし、社会参加へのきっかけにもなります。

高齢者よろず相談センターで話をしている中で、施設用の車両が空いている日中に、地域で活用できないか、と意見が出ました。ただ、車は確保できても、運転手の確保が難しいです。また、事故があったときの責任問題もありますので、容易に実施できません。こうした事業を業務として制度化できれば、永続的に運用することができます。市と連携して、そうした事業が進められるかどうか、検討してみてもいいのではないでしょうか。

高齢者に対する見守りも要望が多くあります。日常のごみ捨てなどのちょっとした手助け等は、介護サービスの対象外となりますので、対応しづらい面があります。市内では町内福祉村が吉沢地区にありますが、そうした要望への取り組みは進んでいないと聞いています。進んでいないのは、何かしらの課題があるのかと思います。

【参加者】

私も特別養護老人ホームに勤めており、多くの高齢者の対応をしています。課題として挙がるのは、歩行が大変になった高齢者が外出を控えるようになることです。外に出なければ、人との交流も少なくなり、認知症の進行にもつながります。

独居の高齢者に対する見守りも課題です。当施設では、市から委託を受けて、配食サービスを実施していますので、その際に見守りをすることができます。しかし、補助金が下がってしまった関係で、自己負担額が上がってしまい、やめてしまう方も見受けられます。一人で住んでいる高齢者には、こうしたサービスは必要だと思います。

【市　長】

現在、本市では２７年度から３か年で、高齢者福祉計画や介護保険事業計画として、将来的な高齢者の生活設計に関する計画を組み立てているところです。

ただ、基本は地域包括ケアシステムです。住まう地域の中で、医療、介護、買物、交通などの満足度が得られる地域を作るのが目標であり、行政の大きな役割だと考えます。

地域包括ケアシステムにおいても、交通の便が悪い状況は喫緊の課題となっています。関係部署それぞれが連携しながら、考えていかなければなりません。

市内では、神奈川中央交通株式会社が路線を管轄していて、そこにバスを走らせていますが、高齢化の進行により、それではまかないきれない状態になっています。事業者には、不便な地域を網羅できるような交通形態を考えてもらいたいと伝えています。また、秦野市内の山間部で、乗り合いバスを運用している実例もあるそうなので、担当部署に検討するよう指示をしています。

なお、先日、日本経済新聞の記事において、国土交通省が過疎地域で高齢者らの移動手段となっている「自家用有償旅客運送」について、市町村が柔軟に運行できるようルールを改める方針を固めたそうです。現行ではあらかじめ決められた経路しか運行できなかったものが、利用者の要望に応じて一定の区域内を自由に走れるようにするそうです。こうした動きをみながら、実際に運用が出来るかどうか、研究していきたいと考えています。

高齢者の方の事故が多いのは、車を運転しないと生活ができず、免許を返納できないという理由もあると思います。交通事故を防ぐという意味でも、公共交通機関だけでなく、使える車両を有効的に運用できるような仕組みを進めることができればと考えています。

市内の岡崎地区では、関係課が連携し福祉村で農協の協力を得て、出張販売の実証実験を行いました。こうした取り組みも全体として、検討していかないといけないと思います。

【司　会】

コミュニティバスを走らせるという意見は以前から多くありますが、採算が合わないことがあります。施設の車を利用するのは一つの選択肢だと思います。

【市　長】

施設の車が、「自家用有償旅客運送」にあたるのかどうか、研究していきたいと思います。施設の方々が課題を認識いただいているのはありがたいです。

見守りについては、３つの事業があります。在宅時緊急通報システム、お話し見守り歩数計、はいかいＳＯＳ平塚など、一人暮らしの高齢者を支える仕組みを作っていますので、積極的に活用いただければと思っています。

【参加者】

そうしたサービスを利用している方も増えていると思います。ただ、現在のサービスだけですべての要望に応えることは難しいです。施設として、出来る限りの対応はしていますが、問い合わせが多く、事細かに対応しきれなくなっている現実があります。地域での支え合いが可能になるとよいと思います。

【市　長】

地域の方々が身近なところで支え合う仕組みとして、町内福祉村の活動があります。市内には１７か所の拠点があり、吉沢地区では「ひだまりの里」があります。町内福祉村が、地域包括ケアシステムの模範として、身近なサービスの提供をしています。もちろん、町内福祉村を作ることが目的ではなく、それぞれの地域の特色に応じた仕組みができればと思います。

平成２７年４月に介護保険法の改正があり、要支援に関するサービスが市の総合事業と位置付けられました。それに伴い、町内福祉村や生きがい事業団との連携が重要になっています。総合事業については、決して地域に押し付けるというわけではなく、地域は地域で作っていくという認識のもと、市とともに対応していければと考えています。

【参加者】

国からの事業は、県と市を経由して、地域に投げられてしまっている現状において、市の担当者からの説明が不十分なことがあります。なぜその事業が必要であるのか等、順序立てて丁寧な説明が求められています。また、地域によって特色があるので、それぞれに応じた事業内容の割振りがあるかと思います。

【参加者】

地域に住む高齢者の方々が、やりがいや役割をもって生活できる社会の実現が理想です。地域の中で活躍してくれるような仕組みができると、高齢者の方々がいきいきと生活できるのではないでしょうか。

③安心安全について

【参加者】

東北地方での水害の例もあるので、福祉施設はマニュアルを作るようにとの指導を受け、避難経路を検討しています。河内地区では、河内川が氾濫した場合、松延小学校が避難所として開設され、旭小学校は土砂災害でないと避難所の開設がないことを聞きました。河内川を挟んで分かれている河内地区では、氾濫している川を渡らないと、避難所にたどりつけません。自治会長からも市には相談していますが不安です。他の地域でもこうした事例があるのではないでしょうか。

【参加者】

災害があった際、学童保育で預かっているお子さんを保護者が迎えにくるまでの間、数日間対応することがあるかもしれません。多少の備蓄はあるとしても、三食対応できるかどうか、課題です。

【参加者】

特別養護老人ホームでは、食料などの備蓄を用意しています。また、訓練も年に２回実施していますが、地域との連携による訓練などはできていないので、まだまだ足りない部分があり、課題だと感じます。

【市　長】

土屋地区や吉沢地区では、土砂災害の可能性があるエリアもありますから、避難場所については、明確にお示しをするため、現地確認を含めて、常時対応していかなければなりません。

氾濫した川を渡らないと、避難場所に行けないというのは、金目地区でもありました。実際に安全を確保できるような、一時的な避難場所の確保も検討していく必要があります。計画どおりに避難して、それが危険とならないよう見直しを含め、担当部署に伝えます。

最近では、短時間での豪雨被害も全国的にありますから、被害が拡大しないよう、早い段階での避難指示や勧告をためらうことなく、発令するようにしなければなりません。雨が降って、水が増しているような場合は、避難所に逃げるよりも、高いところへの垂直避難も有効な手段の一つであると、言われています。

河内川の氾濫対策については、毎年神奈川県に浚渫工事の要望をしているところですが、予算の都合ですぐの対応が難しい状況です。しかし、悠長な事態ではないため、本川に水が入って逆流しないようなゲートの整備や土嚢ステーションの整備など、市としてできる安全対策は進めていきたいと考えています。

6　市長によるまとめ

本日は皆さん、率直な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

先程御意見のありました、子どもたちが公園で思う存分に遊べなくなっているというのは、残念に感じます。ただ、規制があるのは理解いただきながら、利用いただきたいと思います。それでも、地域で自由度の高い遊び場所を作っていければ、子どもたちのためになります。地域で公園を管理するボランティアである公園愛護会と検討いただくのも一つだと思います。

地域の中で、保護者同士が気軽に話し合える場所としては、つどいの広場があります。子育てアドバイザーを配置し、子育ての相談に応じられるようにしていますので、情報交換の場としてこうした場所を広げていければと思います。

総合事業については、地域にお願いしているわけですが、担当からの説明で分かりづらい部分があったかもしれません。担当部署に伝え、注意をしていきます。また、地域に応じた仕組み作りがありますので、そうした地域ニーズを把握しながら、効果的な支援を進めることができればと考えています。

現在、本市では、市内の介護保険施設等で活動するとポイントが付与される「ひらつか元気応援ポイント事業」を実施しています。たまったポイントは、換金や物品との交換ができます。先日、福祉施設を訪問した際、活動している方から、換金等ではなく自分自身が要介護になったとき、そのポイントを使えるような仕組みがあれば、と意見を伺いました。そうした点については、担当部署に検討してもらえるよう話をしているところです。

高齢者の方が元気に活動できる社会が目標ですから、地域の方々のお力添えをいただきながら、いきいきと生活できる地域づくりをしていかなければなりません。

本市として反省しなければならない点もあったと思いますし、多くの貴重な御意見をいただきましたので、各担当部署へ伝えていきたいと思います。本日は、ありがとうございました。

アンケート結果報告

【アンケート回答数　　１６件】

問１　市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	７人
まあよかった	７人
どちらともいえない	０人
あまりよくなかった	２人
よくなかった	０人
回答なし	０人

問２　本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

・市長の生の声が聞けて良かったです。
・４名と市長、司会という少人数であり、話が深まったと思う。
・対話者４名と少人数であったが、じっくりと話し合いが出来たと思う。
意見もまあまあ数があった。
・具体的な課題について、いろいろと対話させていただき、有意義な時間となりました。
・子育てについていろいろとお話が聞けて良かったです。地域の活性化に向け、私たちに出来ることを今後も行っていけたらと思います。
・自治会の役員をしていますが、他の団体の活動、悩み等を聞けて良かった。
・人数が少なく一つのテーマが長い。全体の対話集会になっていないと感じた。
・要望の場になっているので、コーディネートをしっかりしてほしい。
・参加者同士の対話も共有してほしかった。
・出席される市民の募集方法の検討が必要ではないか。
・傍聴していて、聴き取りにくい面があった。マイクを使ったほうがよい。
・何が出来て、何が出来なかったのか知りたい。
・学童保育の現状も少し聞け、びわ青少年のセンターもあるのも知らなかった。
４０年も経っている施設の有効利用が出来ればいいと思う。
・発言者の声がもう少し聞き取れればよい。
・参加者（２０代や３０代）がもう少し多いほうが良かった。
・マイクが必要ではないか。
・高齢化社会の問題については、社協や民生委員、自治会の方の参加がいいのではと思います。